夕刊
磐城新聞
四月十日發行
定價　一部金五錢　一ヶ月金六拾五錢（郵税拾五錢）
廣告料　普通欄金六拾錢　特別欄金九拾錢
發行所　磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）

炭鑛民俗誌　小稿

山口彌一郎

十三

一、石ある所低きは山根より直に横にほり入る也。成る丈けむかふ低にほらず、水くみ取にくき故なり、是非に不及向ふ低になりたる時には水溜る也其時にはスホンにて水をかへ出す也。まぶの眞深くなりて曲もおほくなればスホンも段々縮足しがたく此時は少々掘りしつめ溝を付て水を流す也

次に古い採炭の記錄として浪速蒹葭堂木村孔恭の遺稿である蒹葭堂雜錄がある。この文獻に表れてゐる記事並びに挿圖にも實に興味多い貴重なものがある。其の記事に次の如きがある

一、其石炭を取こと企銀を掘出すに同く、山を鑿入こと數十丈、取得て外に出るに穴口上低きゆゑ石炭を入たる籃を引き四這になりて出る。其形勢圖するが如し、尤此掘出す者其は土地の産の農民などに非ず、五平太鑿とて別にありて、諸國を廻て石炭ある山を鑑定して價を極め買切て鑿ち取事のよし聞ゆ

之れに依つて採炭には鶴嘴を使用し、斜坑から籠橇に容れて人力で曳き坑外に運搬し、又坑外の運搬に就ては江漢西遊日記に『山の上より谷底へ負籠とて藤桂「葛」にて造りたる物を下ろし、車にて上に引き上ぐるとぞ』とあり、當時の捲揚裝置の概念も知り得る

天工開物にあらはれた採炭法の圖及び說明は後述する宇部の南蠻車とよく相似てゐる。その文には次の如くある

凡取煤、經歷久者從土面能辨有無之色、然後掘深、深至五丈許方始得煤、初見煤端時毒氣灼人、有將巨竹鑿去中節尖銳其末插入炭中、其毒烟從竹中透上、人從其下施钁拾取者、或一井而下炭縱横、廣有則隨其左右濶取其上、枝板以防壓崩耳、凡煤炭取空而後以上填實、其井經二三十年後其下煤復生、長取之不盡

當時既に相當進步した採炭法を行つてゐた事が知られる

4月11日

△江戸城明渡し（明治元）△昭憲皇太后崩御（大正三）△大日本聯合青年團大會並に鄕土週間△北海道餘市町大火（昭和八）

その日く

○

非常時の春、軍國氣分も颯爽と、けふ花曇りの空の下に嚴かなる忠魂祭行はる——。

講談

戸隱奇譚　山の怪秘

(154)　丸山寛雄作　眞木浪齋

中條流女醫者（五）

平七郎は躁め、かな女に斷つて、襖の間から人物を隙見して正体を確めることにしたそれが若し正銘の敵岡庭典膳であつた時は、名のりを上げながら表玄關から露路へ馳け出て、眞劍仕合で潔ぎよく黒白を決する事にした

浪人風の侍は、程なく訪ねて來てかな女と相對したやうである

平七郎は、戰く心を抑えながら襖の近くへ拔足で寄り添つて行つた

感情の動搖のためか、瞳がうまく襖の隙間に當て嵌らぬ。今、ぴたり視線が入つた時、平七郎は、そこに男の横顏を見た月代が延び鬢の毛が下り、頰がこけて一見したところは別人のやうであるが、これぞ紛れない岡庭典膳といふことが判つた。平七郎は、矢庭に躍り込まうとしたが、この場合大人氣なく思つたので、一先づ典膳の出てくるのを待つことにした

表玄關を出れば、人通りのあまりない横町である。そこへ平七郎は待伏せてゐた

何といふ緊張した瞬間であらう。仇敵を待ち受ける心。仄かな快感さへ胸に上つてくるではないか、呼吸が詰つてくる樣な氣持ちもする、空は、飜りなく青く晴れてゐる

やがて玄關の格子戸が開かれた音がした

ブッ——

も一度刀の目釘をしめす

横町へ出るまでの石疊を運ぶ下駄の音

秋風が吹き來つたとき、角を曲つて來た浪人風の岡庭典膳、こちらから突き進んだ刈馬平七郎。お互は數歩の距離もなく、ばつたり鉢合せした。下を向いて來た岡庭の眼がぼんやり平七郎を見上げる。萎ゐて冴わない眼の光りだ

平七郎の眼は鋭く開いて岡庭の顏へ飛びついた

『岡庭典膳珍しいの』

度胸を沈めて靜かに呼びかけたものだ

『おゝ刈馬か』

岡庭はぎよつとして二三歩後へ退つた。その間に眼の光は打つて變つて野獸のごとく輝き出した

『來いッ』

埃だらけの鞘をひねつて刀身を低目靑眼

『戶隱の仇きだ、行くぞッ!』

平七郎パッと跳ね上つて腦天へ斬り込んだが、典膳首を横に中空でこの劒をがきりと止めた。つゞいて平七郎さつと引くや、構への隙もなく左の胴を拂つた

『えいッ』

典膳はこれをも美事に受け流した

平七郎は奥の手、突きの一手を使ふ必要を感じた

『それッ』

平七郎の自信ある取つておきの劒法。拜み突きに突いて出たが典膳腰を沈めたと見るや、俄かに背後を見せて、大通りへ逃げて出た

『卑怯な眞似をするか』

平七郎もつゞいて跡を飛鳥の如く馳け出した典膳は、そこへ來た八百屋の車を倒して一目散に逃げる行人も時ならぬ、この追かけごつこを立停つて呆氣にとられて見てゐる

岡庭の脚は太く大股である。平七郎の脚は細く小刻みで半町の隔たりをもつて上野の方へ馳けてゐる。そのうち自身番の者が二人程只事でないと、二人のあとから股立ち取つて馳け出した又その跡を酒屋の小僧らしいのや、呉服屋の番頭らしいのが、わいわい騷ぎながら馳けて行く。仇討ちは表沙汰になつた

岡庭典膳は、韋駄天がけに馳けて、山下から三枚橋のところに出た。こゝはもう相當な人通りがある。彼は怪しまれてはと刀を納めようとしたが、しまつた! 鞘が無い。ゐいまゝよ……と拔身を傍の溝へ投げ込んだ

大社紀行　上

佐波古湯嶽

途上

夜來雨雪覺春寒　朝整衣冠心氣寛
方欲達多年宿望　出雲大社敬神團

○

車窓放眸遠觀瞻　宿雪初晴天地嚴
想見雲州風景美　敬眸今旣對脊嶺

早春對雨

珠雲　小野務平

梅已回魂柳未勻　杜門非是倦游人
東窗獨坐詩成未　細雨尖寒亦惱神

客舍聽雨

梗徙萍遷歲幾更　好花時節又傷情
重山複水客千里　中夜半窗風雨聲

傳說哀話

屏風塚（轉載を禁ず）

島田忠夫

上

『新左衛門どのが、御自害なされました』

『わわツ、知、父上が!』

村の人の知らせを聞いて失神せんばかりに驚いたのは、この夜祝の庄屋へ嫁いだばかりの花嫁お咲であつた。庄屋の廣い屋敷は、祝宴の燈で、まるで晝のやうに明るかつたし、この夜祝宴に招かれた人々の唄ふこゑ、さざめくこゑが、春の夜空を明るくひろげてゐた……

祝宴なかばに席をぬけたお咲の父小林新左衛門は、とある丘で自害をしてゐた圍りには、金屛風がめぐらせてあつた。そして、屛風外に、加賀新左衛門といふ一文字に腹を切つて、なほ花嫁のお咲が來るまでしつかりしてゐた

『おゝ、お嬢さまでござりまするか。お目出たうござります……』

最後の聲であつた。關の空にハラ〳〵と櫻が散つた

慶長年間、關ケ原の戰ひに豊臣家に加勢して、一敗地にまみれた浮田秀家の家老武士がゐた、主君の最後を見とゞけると、主君の一人娘の咲姫をつれて、はる〴〵と奧州のはてまで逃げのびて行つた

德川方の詮議は、きびしいものだつた。新左衛門は小林と苗字を改めて、漁師をしたり、百姓をしたりして、貧しい暮しをつゞけた誰れの目にも、貧しい父娘としか見えなかつた

廣告

小學生用 防水マント
新入學生用　¥1.40　¥1.80　¥2.20
パラソルとスカーフ陳列。
ツルヤ

株式賣買、債權取立
合資會社 三共商事
平町大町電三六〇

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

國は日本。凍魚はヒノマル
ヒノマル
凍魚
鯛。海老。白魚。イカ
刺身魚、煮魚、各種品々一個一尾ニテモ迅速配達……
日本水産一手特約
發賣元
平製氷株式會社
電話二八二・三一六番
平町代理店
ト印魚問屋
電話五二八番

井上茂作氏　客年來破産法事件ニ關シ審理中ノ處去月二十七日宮城控訴院ニ於テ無罪ノ判決ヲ受ケ爰ニ全ク晴天白日ノ身ト相成候ニ付テハ慶賀ニ堪ヘサル次第ニ有之候就テハ君ノ爲メ左記ニヨリ雪寃慰安會開催致スヘク候間御賛成ヲ得度此段御通知申上候　敬具

記

一日時　昭和十年四月十一日午後一時
一會場　平町聚樂館
一會費　金五十錢

昭和十年四月六日

發起人
青沼鋒太郎
野崎滿藏
諸橋久太郎
萩原義雄
佐々木龍若
坂本隆藏
關内正一

申込所　平町二丁目（電話十六番）關内油店方

急募
演藝舘係若者　數名
舞踊家志望の女子（十四才以上）　名
（希望者は博覽會事務所にて面談）

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい……
直に家政婦を派出します。
親切叮嚀…料金は極めて低廉です
姙産婦の御家庭　お留守居番
御病人の付添　年寄やお子さんの付添
炊事や雜用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二（電話二二）
上原家政婦會
會主　產婆　上原通子

クスリはホシ
頭痛專門藥
ホシヘデキユア
たつた二粒!! けろりと癒る
主治効能　偏頭痛、頭痛、顏面神經痛、眩暈、常習腦貧血、逆上惡心、其他の頭痛に卓効あり
用法用量　頭痛時一乃至二錠服用、小兒には用ひず
ホシチエンストアー平支部
ホシ藥舖
平町三丁目三〇　電話四二九番

ホシ胃腸藥に就きて

星製藥株式會社顧問辯護士
東京市神田區錦町一ノ一
辯護士　法學士　花井忠
東京市丸の内二ノ八
辯護士　法學士　成富信夫

一　各位の熟知せらるるが如く株式會社大阪製藥所（元株式會社星製藥所其前芝商事株式會社）はホシ胃腸藥（ホシアンチツベルケン、ホシチオール等を含む）の商標權に關し、東京地方裁判所及び東京控訴院に於て法理上及事實上より完全に敗訴したるものなるに、賣藥販賣人に對して欺瞞的宣傳文を以て益々其製品の販賣を奬勵するを以て、賣藥販賣人中にはホシ胃腸藥が星製藥會社のものたることを承知しながらも、其宣傳文を口實として之を販賣し居るものあり、かくては製品の品質上、商標の信用上一般需要者は欺瞞を蒙り本社と共に其の受くる損害は甚大なものがある、茲に其販賣者に對して假差押の執行を爲すに至りたる所以である。

二　一般賣藥家に警告す、法治國は法の根元たる良心に從ふべきことを命じて居る、健康を賣ると同樣の商賣を爲し居るものは國法を尊重するは勿論、職業的良心に服從せねばならぬ、ホシチエーンストア中萬一之を犯すものあらば其罪一層重きものなることを知らねばならぬ。

三　人間の生命に關する藥品取扱の重要職業にあるものは須らく其の使命を自覺し法の指圖を待たず良心の指圖に依りて自己の歩むべき道に處さねばならぬ。敢て警告す。

昭和十年三月

櫻咲く松ヶ岡公園に けふ忠魂祭典の盛儀

征露卅周年と當面の非常時意識に 全參列者に緊張の色漲る

殷々たる煙火に全町の春眠を破つて忠魂祭の日は花咲く日に相應しい雨催ひの裡に明けた祭式は午前九時半から來賓其他約五百餘名を招き例により神佛兩式により盛大に開始

青沼町村長支會長、藤田在軍郡聯合分會長、秦第二師團長、伊藤知事、齊藤二十九聯隊長、眞山福島聯隊區司令官、柴田武德會平分會長

其他來賓の祭文に次ぎ司會者、來賓、在軍、遺族老兵、赤十字、愛婦、學校教職員並に生徒の拜禮等で賑ひ一方武德會平分會主催の武道大會は例年の如く管内分會員多數の出場あり劍道に、銃劍術に息詰まるやうな接戰を演じ征露三十周年記念のこの意義ある日を飾つたが

抑々日露の役たる、明治卅五年露國は滿洲から悉く撤兵する事を滿國に約し乍ら履行するの意無く益々旅順の要塞を修め更に手を韓國に迄伸ばしたので我國は自國の防衛と東洋平和の爲屢々交渉を重ねたが、露は誠意無く愈々武備を修めて我國を威壓せんとしたので遂に國交を斷絕し、我海軍は旅順港に敵艦を封鎖して海上權を獲得し、陸軍は滿洲に出兵し殆と連戰連捷、奉天及日本海の海陸大會戰に大勝し戰役の大勢定まるに及び米國大統領ルーズヴエルトの斡旋により彼我全權はポーツマスに會して平和條約を締結した我國曠古の大戰役で、今や全滿三千萬赤子の慈父として順天安民の王道樂土を築き上げ給ひし蘭花香る國の帝。善鄰の元首滿洲國皇帝陛下が御來訪中の折柄とて今日の催しこそは人々にとつて一入感慨深きものがある

護國の神として 靈光を垂れ給へ

眞山聯隊區司令官祭文

祭文

茲に石城郡出身戰死者病歿者諸氏のため忠魂祭を擧行せらるゝに方り謹みて諸士の英靈に告ぐ、回顧すれば諸士は既往戰役に於て銃後の力强き支援により具に辛酸を嘗め劍電彈雨の裡毅然として其の任務を果し一死以て國難に殉す、是を以て累次の征戰に連勝し克く曠古の大捷を博し皇威を中外に宣揚し國運隆々以て今日を致せり、其忠勇義烈は炳として千古に朽ちす實に後世の龜鑑たり、今や帝國は非常時局に直面し擧國一致國難を打開せさるべからす、此の秋に於て親しく諸士の英靈を拜し追慕の念更に切なり庶幾くは護國の神として永へに靈光を垂れ給はんことを

昭和十年四月十日

帝國在鄕軍人會福島支部長

陸軍步兵大佐正五位勳四等 眞山 周三

征露卅周年記念大會

式後在軍聯合分會で開催 聚樂館に出席者八百名

在鄕軍人會郡聯合分會では祭典終了後午後零時半から聚樂館に日露戰捷三十周年の記念大會を開催、來會者八百餘名既報の如く國歌合唱、勅語捧讀、支部長訓示決議、帝國飛行協會總務理事陸軍中將四王天延孝氏の講演、大元帥陛下萬歲を三唱、終つて非常時に因んだ藝妓踊の餘興あり盛會裡に終了した

四王天中將

非常時解消せりや。に 全聽衆奮ひ起つ

憂國慨世の熱辯

在軍、靑年團、國防婦人會の合同主催に係る帝國飛行協會總務理事陸軍中將四王天延孝氏の時局講演會は昨九日午後七時半から平第三小學校講堂に催されたが聽衆は滿堂館の盛況で大嶺靑年團長の開辭に次ぎ軍服佩劍に身を固め六尺豊かの巨軀を壇上に運んだ中將は『非常時解消せりや』と題下に列國の軍備强化の非常時再認識の感銘を植えつけた

支那に於ける排日思想、滿鐵讓渡眞意とロシア飛行隊の充實に對する我國飛行陣容の薄弱、ドイツの再軍備其他歐洲全土に低迷する暗雲狀態、歐洲大戰の導火線をなしたフリーメンソン(秘密結社)の暗躍から目下問題となつてゐる天皇機關說に及んで之を痛酷に論駁、最後に『西洋思想の輸入を排擊して國体觀念の統一を圖り世界のリーダーとならん』と結んだ滔々前後三時間に亘る憂國の大講演を了り萬歲三唱同十時半盛會裡に閉會した、尙聽衆中國防婦人會員十餘名の姿が人目をひいてゐた

圖畫鑑賞會

第一で逐次開催

平第一校では昨報の磐中創立四十周年記念祝賀美術展の小學校兒童作品展覽出品を兼ね圖畫科の向上を圖り兒童の個性、特徵を特に重視し埋れた寶玉を發見するをモットーとして早くも準備を開始したが來る二十日は校內兒童作品の第一回鑑賞會を開きなほ追つて逐次同上を開くべく指導することになつたと

大敷に豐漁の兆

多數漁夫が入り込み 小名濱町に活氣出づ

小名濱大敷網は既報の如く目下漁季を前に各方面から約二、三百名の漁夫が入り込み準備を進めてゐるが大体今月末で終了するので來月早々投網を開始するが今年は水産試驗場などの調査によつても鯛、メジマグロなど例年以上の豐漁を見るであらうとの吉報に何れも活氣を呈してゐる

。。。。。大浦靑年見學 大浦村大字上仁井田靑年分團では今十日午前四時茨城縣方面に農事視察のため大バス二臺分乘出發した

。。。。。自協支部役員會 自動車協會平支部役員會は十一日午後二時から平署に開き優良運轉手表彰其他雜件を協議する

。。。。。賭博へ罰金科料 小名濱町竹町漁夫四家酉松(四四)同佐川安吉(四二)同水夫髙橋鐵次郎(四三)江名町永崎宇川畑農長山仙三郎(四六)小名濱町舟引場漁夫柳内秀明(三六)の五名は去月晦日夜四家方で十圓賭博を開張、長山が六十圓、四家、佐川が各三十圓、髙橋、柳内が各二十圓の略式罰金を此程平區より言渡されたが同夜賭場に居合せた隣家の小松元吉(三四)に賭場參集の廉で同じく科料十圓を言渡された

井上中將軍事講演

來十八日磐中で招聘

磐城中學校では來る十八日日本興國聯盟理事井上一次氏中將を招き午後二時より氏一流の軍事講演會を催すと

。。。。。傳貧馬檢診 石城産馬畜産組合では十五日から三日間川前村の傳貧馬檢診を行ふ

なかや慰安會

平町三丁目なかや洋服店では得意慰安として一昨春日立リードバンドを招き大好評を博したが今回も來る廿日一行三十名を招聘午後七時より聚樂館にコンサートを催すことゝなり前人氣を呼んでゐる、尙入場は無料で申込み次第同店より入場券を進呈する

投槍

投書歡迎

。。。。。。。花時の車類御法度

◇花見の最中 恐らく何が癪に障ると云つて、織るが如き人込みの中を貸切自動車が小さくも無い圖体で割り込んだり突然けたゝましい警鈴に後ろから脅かす位程不愉快なものは無い

◇殊に車中の 醉漢がお店の番頭風情で傲然と構へて居るのや、小便臭いそして白粉剝げのした第三流處なんかに至つては折角飲んだ花見酒も醒めて了ふと云ふもんだ

◇そこで一つ 當局に注文と云ふものをするんだが今日以後の花どきに於て自動車と人力車は晝間人込みの時公園地內に立入らせぬ事、自轉車は許すとしても必ず徐行するか、降りて引つ張り歩くとかにさせて貰ひ度い

◇第一そうした方が、そつちのお花見こつちの宴會と暴飲暴食に陷り易い時季に於て常に運動不足の藝者や宴會常習の紳士などにとつてからだの爲遙かに良い事にもならう(池畔逍遙生)

平町優良納稅組合表彰

來十七日擧行後觀櫻會

平町では十七日午前十時から會議室で優良納稅組合並に組合管理功勞者の表彰式を行ひ終つて公園ときわで觀櫻會を開く、表彰を受ける功勞者左の如し

田町西部納稅組合管理者石坂詮太郎 南町一ノ組同近藤ムメ △立町一ノ組同荒川淺次郎 △南町組同鈴木重太郎 △研古組同齊藤榮吉 △刑務所員同大塚保 △紺屋町三ノ組同菅野春吉 △二丁目三ノ組同柏原眞吾 △研町第二區一ノ組同吉村安次郎 △戊辰納稅組合同馬目雅治 △才槌小路同堀喜一

第二校級長

平第二校では第一學期の左記正副級長を今十日任命した

三年―一組草野トシ子 海野和子 二組猪狩敏子 海老根京子 三組花澤久子 松本啓子 四年―一組磯貝シヅエ 清野俊子 二組菅野榮子 中野靜子 三組正木田鶴子 太田二三子 五年―一組黑木智子 山野邊公子 二組有賀貞子 廣田ユキ 三組大嶺悅子 長瀨多美 六年―一組梅津吉子 國井アキ 二組木田秀子 三浦榮子 三組酒井良子 坂本勝子 四組櫻庭美代 村山佳子 高一―一組佐崎久子 小野寺マサ子 二組杉山ツキノ 新妻ハル子 三組川崎初子 大木アサ 高二―一組近藤シヅイ 小松崎ミツエ 二組鈴木省子 大和田悅子 三組栗田ケイ子 會澤ヨシ

第二遠足會

平第二校では明十一日の創立記念日に當り左記各方面に遠足運動會を催す

一年―公園 二年―權現山 三年―飯野村瀧門寺 四年―鎌田山 五年―小島山 六年―磐炭高坂坑見學 高一高二―神谷村農試分場

。。。。。鼠賊檢擧一束 湯本町字臺之山無職白岩正助(三二)は去月二十七日夜同町三村合宿の友人齋藤東二方に泊り込み寢靜るを見て同宿の金村勉のオーバーから現金五圓二十錢在中の蟇口一個を竊取し、此の金を双葉郡大久村の友人を訪れる際の土産金に當てた事發覺十日。△磐崎村大字白鳥字勝丘六七農岡部繁治(三三)は去月十八日午後三時頃同村鑛泉宿業春木屋事織内福助方に入浴中の植田町本町四三石田長太郎(四四)のクローム角時計(價格十八圓)を竊取、昨九日何れも平署に檢擧さる

埋立工事場から 白骨を續々發見

昔の海嘯遭難者と判明 供養塔建立計劃

小名濱町定西地内の埋立工事は昨年六月頃から着工したが最近毎日のやうに白骨が出るので關係者も吃驚調査した處

今より二百五十餘年前延寶五年十月の海嘯で男女約八十名、及同約二百四十年前の元祿九年六月の暴風雨での遭難者を祀つた靈人塚の跡であつた事が判明

そこで同町信用組合長長瀨金右エ門氏が發起となりこれら遭難者の靈を慰めるべく工費約千圓を投じ記念碑を建立する事に決定、目下町役場其他漁業關係者援助の下に準備を進めてゐる

鄕土の史的時事解說(二)

白水阿彌陀堂の第二回修理

本堂宇の特別保護建造物並に內壇安置五佛像國寶各指定に就て

勿來生(壱)

此の理由は如何か。乃ち信憑すべき古書、舊記が中世既に燒失、湮滅した爲か謂はゆる古文書なるものが大半失はれたのに乘じて、特り之が系圖、家傳乃至神社、寺院緣起、傳說等が其の後に至り、徒らに濫作、附會せることに占められ、偶々取り落された文書の方が僅少の爲め、反つて其の正史料と認むべきものが尠に於いて負けた罪であらうか。併し史學の要は其等の比較、存在に因つて牽制、按排するのではなく、一片の正史料、一握の關係史料に據つて之を推察するのであるから、如何に時代的の古書、舊記が鮮少なりとも或は反對に傳說、附作が夥多にせよ頓著せざるのが勿論だ

岩城氏に對する關係史料即ち平安末期より江戸初期(其の後裔の貞隆が出羽に左封の後は除く)に至る間の記錄文書は、他州の舊族古氏に比べて割合に少ない是れは惟ふに、其の本家又は親類に興亡が劇しかつたのに大原因するのであらう殊に岩城氏研究に必須ものたる鎌倉初期前後に係るのは至つて僅かであるが、南北二朝の戰亂に入つて漸く多く、次いで足利の室町幕府中には豫想の外に少く降つて織、豊二氏の前後も亦然りで、總体的に賴朝が奧州征伐後に功臣を之に占封した諸將の後裔に傳へる史料の數よりは、意外にも甚だ些少で較べものにならぬ。是れ奧羽の中世史と大に由緣りある當家の研究いにとつては、寔に殘念の極みと謂へよう

故に本節には其の尠くとも岩城氏に關係し、又は直接交渉のある史料を、古文書、舊記から摘抄して、凡その論考を試みたい。但し紙面の都合と予の時間の支障に依り、其の初見より鎌倉北條幕府滅亡までを辛くも拾收するに止める

先づ之が始認は、元と岩城郡飯野鄕內鎭座の飯野八幡社藏の同社緣起書(今は其の神主たりし後裔の飯野盛男家に歸有)である。卽ち文治己酉(五年、一八四九)歲、地頭岩城太郎淸隆、預所千葉介常胤、別當(飯野八幡社)嫡男師隆

平窪から

。。。。。兒童の淸掃奉仕 中平窪宇富貴內地內觀音堂を近隣の小學兒童一同が毎日淸掃感謝されてゐる

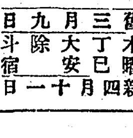
。。。。。今年度種痘 七日行ひ十五日檢診をなす

村會 此程開き九年度追加更生豫算、鄕倉條令決定、左記寄附採納 傘五十本―長瀨三喜郎、三十圓―松本金市郎、五十圓―松崎松治、十圓―安積郡赤津村農產業西方淸市

。。。。。公民校卒業式 此程執行出席步合九〇、七%の好成績、生徒は男だけ百四名の精勤者五十七名

。。。。。靑訓へ寄附 去る一月若松步兵聯隊に入營した中鹽出身戸田元善は先日金二圓を靑年訓練所に寄附

新四月十一日 木曜 / 舊三月九日 丁巳 大安 除 斗宿



諸判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 髙島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 目上識者の意見を尊重するが尤も安全の日▲二黑の人 慮る事深く秩序正しければ基礎大に定る▲三碧の人 物事もつれを生じ易し飲食物にも注意を要す▲四綠の人 壯圖半ばにして外邪に妨げられ易し注意▲五黄の人 營業には吉なれども新規の事には危險伴ふ▲六白の人 何となく束縛さるゝ樣な氣持ちの去らぬ日▲七赤の人 內外共に無事にして目上とも親しみ有べし▲八白の人 正しき道を踏み拔け目なく思ふ所に進す▲九紫の人 目上に逆うはぬ樣すべし外に在て失物注意

十一日(小名濱測候所調査)

日出 五、一二 月出前 一一、〇四
日沒 六、〇六 月沒前 〇、五七
滿潮前 七、二〇 干潮前 一、五五
後 ── 後 四、一〇

書生 壹名採用
高等小學卒業程度(十五才―十八才迄)
履歷書持參・一切面會ノ上採用
面會時間午前十時―十二時迄
希望ノ方ハ
平町十五丁目(警察署裏新川通リ)
鹽谷宅マデ

專門 耳鼻咽喉科
高柳耳鼻咽喉科醫院
(入院應需)(自炊ノ便アリ)
平町驛前(電三三六)
醫學博士 高柳博明

內臟外科一般 外科花柳病科 (入院隨意)
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

內外建築材 建具材
磐城國平町(公園下)
入阿部材木店
阿部好利 改メ(章)
電話四九四番

開店披露
牛。豚。鳥肉
破格の勉强を以て御用命に應じます御ひゐきの程懇願致します
平町二丁目(元のんき靴店あと)
武田肉店

流行ノ下駄ト草履ハ!
ドコヨリ安イ
南町 三井ハキモノ店
(小僧さん入用)

小兒科
平町南町五〇番地
志賀醫院
(入院應需)
電話一六二番